

平成 29年度予算案のあらまし



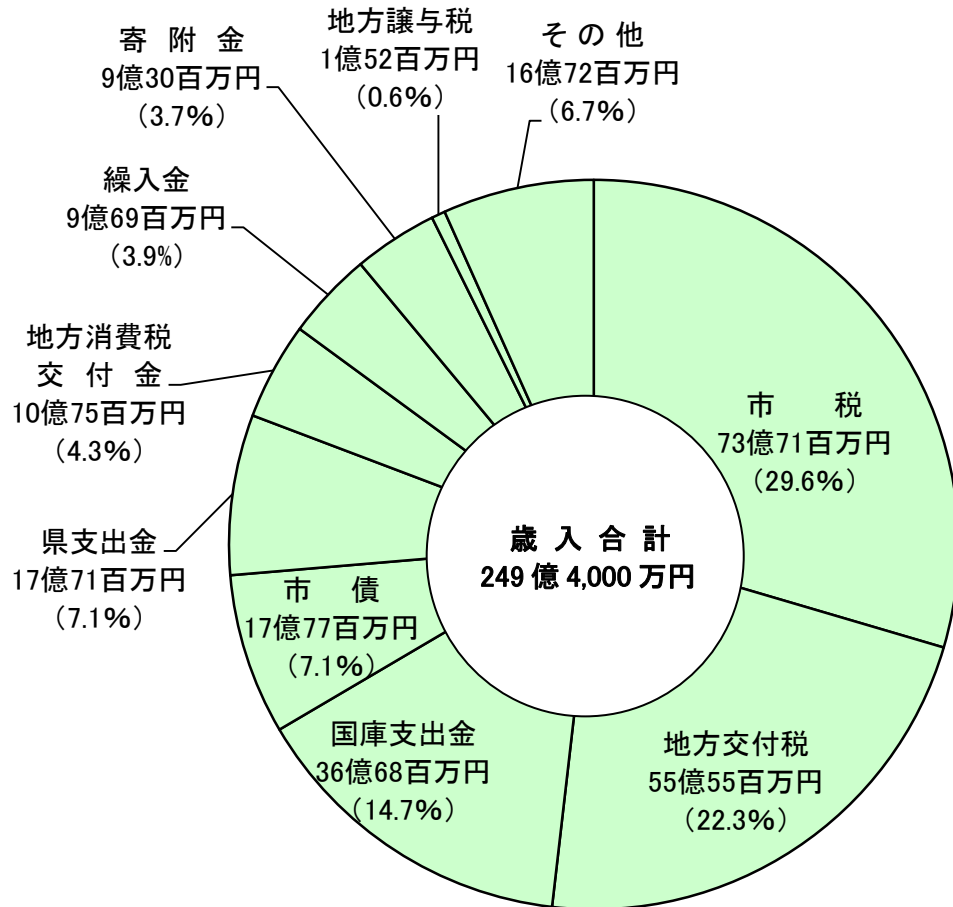
天 理 市

『平成 29 年度予算案』

◎一般会計予算 24,940 百万円 (対前年度比 △670 百万円、2.6%減)

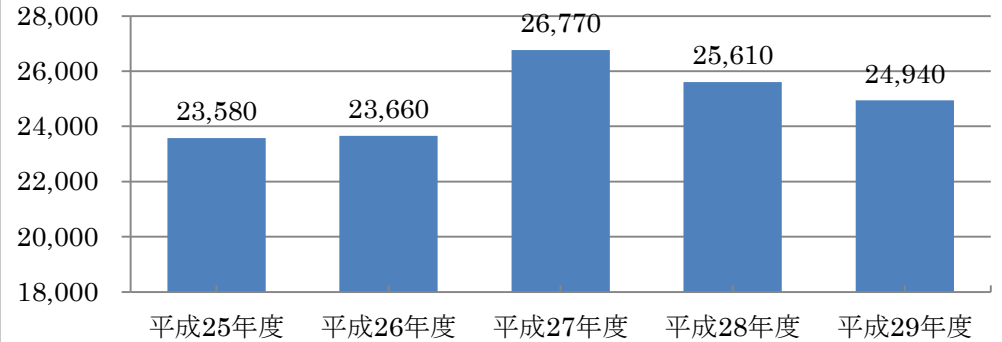
◎全会計予算合計 46,696 百万円 (対前年度比 △457 百万円、1.0%減)

『一般会計 歳入』



予算規模

単位：百万円



〔主な歳入の状況〕

①市税

市税については、税額控除額の増加が見込まれること等により、個人市民税を前年度より減収と見込んでいる。固定資産税については、新築家屋の建築等による増収を見込む。たばこ税については、たばこ離れが進んでいること等により減収を見込んでいる。

市税全体では、前年度と比較し 69 百万円(0.9%)の減少

②地方交付税

基準財政収入額の減少を見込み、前年度と比較し 87 百万円(1.6%)の増加

③国庫支出金

地方創生推進交付金に係る国庫支出金が増加するものの、天理駅前広場周辺整備及び小学校整備事業に係る国庫支出金の減少等により、前年度と比較し 2 億 17 百万円 (5.6%)の減少

④市債

天理駅前広場等整備事業債、前栽小学校整備事業債及び退職手当債等の減少により、前年度と比較し 4 億 18 百万円(19.0%)の減少

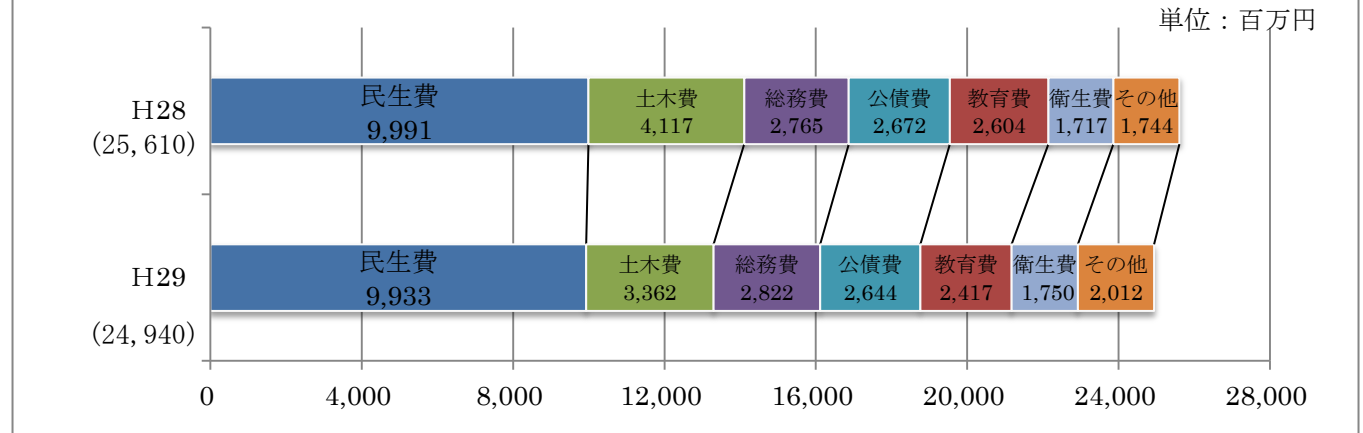
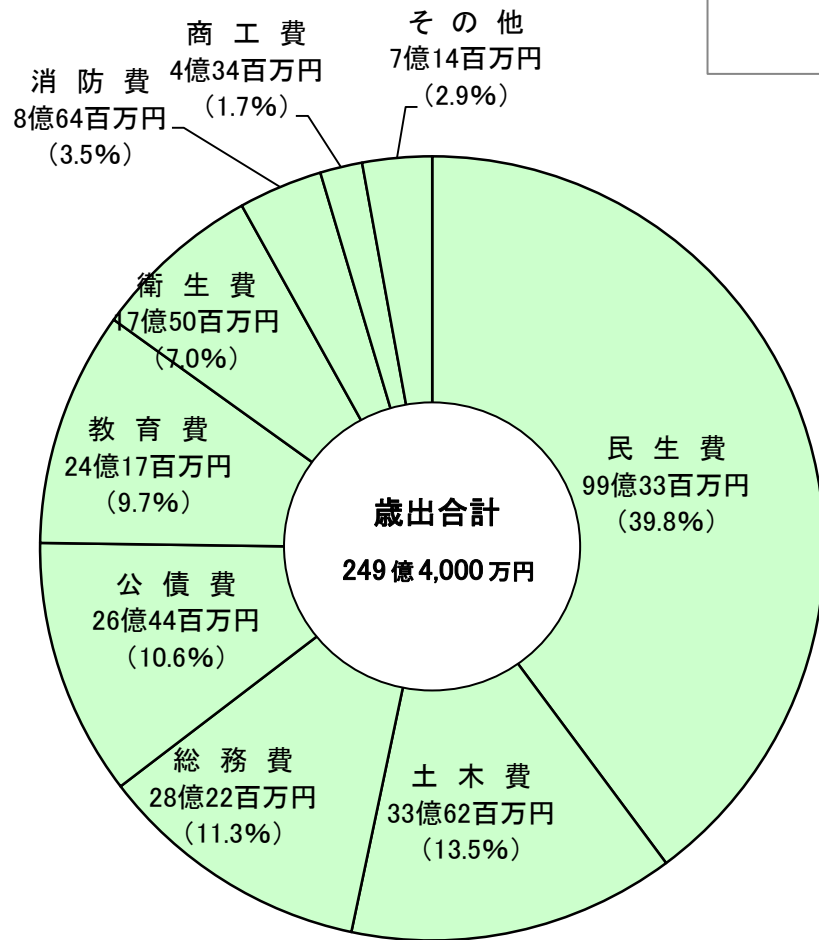
⑤県支出金

県市まちづくりに関する包括連携協定交付金等の増加により、前年度と比較し 30 百万円 (1.7%)の増加

⑥繰入金

財政調整基金の繰入は減少したものの、公共施設整備基金及びふるさと応援基金等の繰入金の増加により、前年度と比較し 92 百万円(10.5%)の増加

『一般会計 歳出』



〔主な目的別歳出の状況〕

①民生費

民生費の予算額は99億33百万円で、前年度と比べ58百万円(0.6%)減少しており、歳出全体の39.8%を占めている。その内訳は、社会福祉費(障害者福祉、老人福祉等)が44億23百万円、児童福祉費が42億86百万円、生活保護費が12億23百万円等となっている。

【主な増減理由】 障害福祉サービス等扶助費の増加及び学童保育所建設工事費の減少

②土木費

土木費の予算額は33億62百万円で、前年度と比べ7億55百万円(18.3%)減少しており、歳出全体の13.5%を占めている。内訳は、都市計画費が24億95百万円、道路橋りょう費が5億18百万円、住宅費が1億27百万円、河川費が80百万円等となっている。

【主な減少理由】 天理駅前広場等整備工事費及び道路改良工事費(北大路線)の減少

③教育費

教育費の予算額は24億17百万円で、前年度と比べ1億87百万円(7.2%)減少しており、歳出全体の9.7%を占めている。内訳は、小学校費が5億7百万円、幼稚園費が7億6百万円、社会教育費(文化財保護、公民館等を含む)が5億8百万円等となっている。

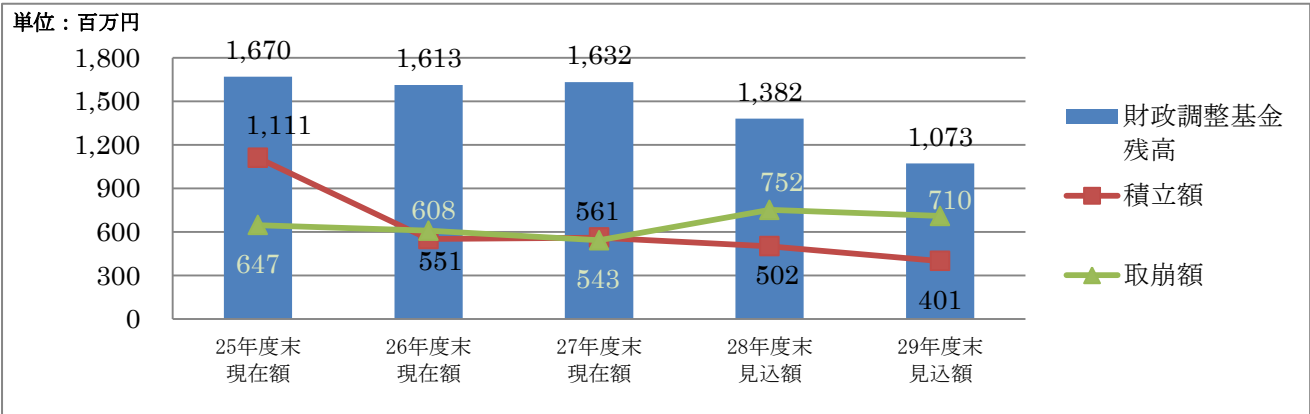
【主な増減理由】 前栽小学校整備工事費の減少及び柳本幼稚園整備工事費の増加

④衛生費

衛生費の予算額は17億50百万円で、前年度と比較し34百万円(2.0%)増加しており、歳出全体の7.0%を占めている。内訳は、保健衛生費が7億20百万円、清掃費が10億30百万円となっている。

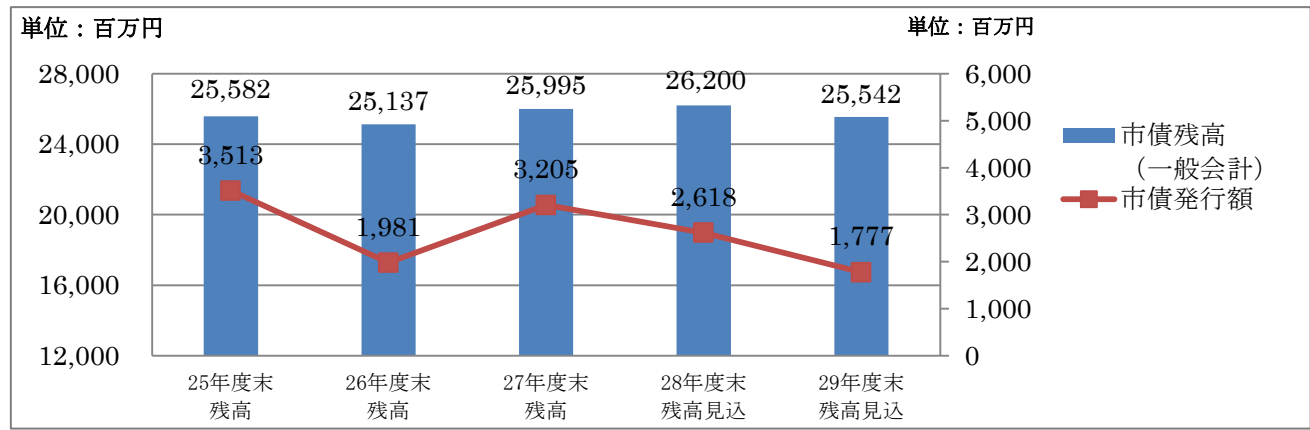
【主な増減理由】 旧市立病院解体工事費の増加及び環境クリーンセンター既設処理装置更新工事費の減少

『財政調整基金と市債』



財政調整基金

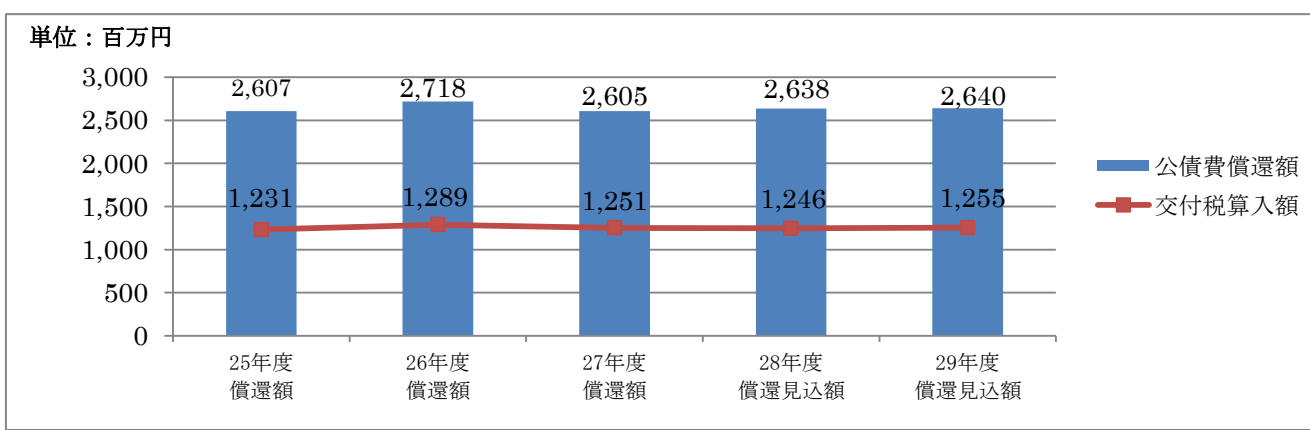
平成 29 年度財政調整基金の取崩額は 710 百万円となり、前年度当初予算を 70 百万円下回ることとなった。平成 29 年度末財政調整基金の残高見込額は、1,073 百万円で推移するものと見込む。



市債

平成 29 年度市債発行額は、1,777 百万円となり、前年度を 841 百万円下回ることとなった。これは、前栽小学校整備事業、天理駅前広場整備事業など、普通建設事業に係る市債が減少したことが主な原因である。

平成 29 年度末の市債残高は、25,542 百万円（前年度比 658 百万円減）で推移するものと見込む。



平成 29 年度市債償還額は 2,640 百万円（前年度比 2 百万円増）となる見込みである。そのうち 1,255 百万円分については地方交付税により措置される予定である。

『これからも住み続けたいまち天理』を目指して～四つの基本目標～

平成29年度予算編成においては、地方創生と1億総活躍社会の中で、「これからも住み続けたいまち天理」を目指して以下の四つを基本目標として掲げ、それぞれに設定した施策に重点化した予算編成を行いました。

【新規】…新規事業 【拡充】…拡充事業 【創生】…地方創生推進交付金事業

単位：千円

I 地域資源と新しい技術・多様な働き方を融合し、安心・充実して働ける場を創出する

① 天理マルシェ開催事業【 拡充・創生 】	2,500
② 中小企業金融対策（融資枠5億円、融資保証料補給、利下げ補給等）	10,199
③ 特産品開発事業	430
④ 農業経営法人化等支援事業補助	600
⑤ 経営所得安定対策推進事業	4,313
⑥ 水と農地活用促進事業、市単独土地改良事業、諸土地改良事業	109,193
⑦ 農村基盤総合整備事業	49,573
⑧ 若者世代男女共同就業促進事業【 新規・創生 】	3,738
⑨ 産業振興館運営事業	11,540
⑩ 企業立地支援事業（工場等設置奨励金・事業所設置奨励金）	48,355
⑪ ICTを活用した新たな働き方推進事業【 新規・創生 】	10,583
⑫ 6次産業立地推進事業	8,000
⑬ 創業支援事業【 新規・創生 】	16,967
⑭ 柔軟な働き方による就業支援事業【 新規・創生 】	5,000
⑮ 地域資源を活かした地場産品活性化事業【 新規・創生 】	5,400

⑪ ICTを活用した新たな働き方推進事業 10,583千円

時間や場所にとらわれず柔軟な働き方ができるテレワークは、子育て中の女性が育児と就業の両立を実現できる手段であり、子育て世代すこやか支援センターと2つのテレワーク拠点を結び、テレワーク講習会の開催等を通して効果的な連携を図るとともに、子育て世代のニーズに合わせた柔軟な働き方を提案し就労の支援を行います。

⑬ 創業支援事業 16,967千円

創業希望者を対象に店舗づくりや創業についての基礎知識を習得するための創業支援セミナーを開催します。
市で空き店舗を借り受けて修繕し、必要な器具等を設置することで、創業者の実験店舗として提供します。
また、市内事業者の後継者に関する調査をし、後継者不足の事業所をデータベース化し、創業者を後継者にするマッチング等に活かし、市内事業者後継問題の解決につなげていきます。

II 天理ならではの魅力を活かし、新しい人の流れを作る

① 天理駅前広場にぎわい創出事業	2,000
② 黒塚古墳周辺エリアサイン整備事業【 新規 】	1,000
③ 天理市版 CCRC 導入可能性調査事業【 新規・創生 】	5,000
④ 空家対策事業【 新規・創生 】	3,120
⑤ 天理芸術フェスタ開催事業【 新規・創生 】	18,626
⑥ 芸術通り基本計画策定事業【 新規・創生 】	5,400

⑫ 周遊観光事業 11,240千円

本市の豊かな歴史文化や自然、景観、食などの地域資源を活かした周遊観光を促進するため、地域を巡るウォーキングやサイクリングイベントなどを開催するとともに、天理駅前「食と旅の拠点」に観光コンシェルジュ（観光案内人）を配置し、利用者のニーズに応じたきめ細かな情報提供サービスを行います。

⑦	アーティストインレジデンス実施事業【 新規・創生 】	1,200
⑧	山の辺フィルムコミッション事業【 新規・創生 】	7,200
⑨	国民文化祭開催事業【 新規 】	11,806
⑩	天理市総合型地域スポーツクラブ支援事業	1,470
⑪	ラグビーWC、東京オリンピック・パラリンピックキャンプ地誘致事業	1,125
⑫	周遊観光事業【 新規・創生 】（周遊ウォーキングイベント、サイクリングイベント、観光コンシェルジュ）	11,240
⑬	芸術家村周辺エリア情報発信事業【 創生 】	18,360
⑭	三世同居・近居住宅支援事業	2,000
⑮	文化財の保存と活用事業【 新規・創生 】	19,137
⑯	古墳文化情報発信事業【 創生 】	288
⑰	鋳造体験事業【 新規・創生 】	1,924
⑱	周遊観光施設（駐車場・サイクルロード）整備事業	164,700

⑬ 芸術家村周辺エリア情報発信事業 18,360千円

本市の歴史文化・芸術・自然・食・モノづくりなどの魅力を可視化し、トータル的にイメージした「天理ブランド」をより効果的に発信するため、映像やホームページ、グッズなどの発信ツールを作成し、幅広い年齢層に届く情報発信を図ります。

⑮ 文化財の保存と活用事業 19,137千円

普段見ることのないような貴重な出土品、複製品、整理修復作業の様子を一般公開し、文化芸術に接する機会を増やし、観光客等の集客を図ります。

平成29年度では、全国的にも珍しい双方中円墳の形状を持つ櫛山古墳の3次元立体図作製、豊田狐塚古墳から出土した銅鏡や金属製品の保存処理、弥生時代の祭器である石上銅鐸の複製品等の作製を行います。

Ⅲ 子どもを産み育てたい人の希望が叶う、選ばれるまちになる

①	子ども医療費助成	167,180
②	ひとり親家庭等医療費助成	44,832
③	児童手当の支給	1,150,500
④	児童扶養手当の支給	325,757
⑤	子育て支援事業（地域子育て支援拠点事業補助（4ヵ所）【 拡充 】等）	36,652
⑥	子育てコンシェルジュ事業、産後ドゥーラ事業、産後ケア事業	4,165
⑦	天理市版ネウボラ深化事業【 新規・創生 】	1,893
⑧	学童保育の実施	90,063
⑨	学童保育施設整備事業	4,579
⑩	保育サポート教員の配置（幼稚園）	13,794
⑪	長時間預かり保育サポート事業（櫛本・二階堂・柳本幼稚園）	7,254
⑫	妊婦一般健康診査費用助成	50,920
⑬	子宝支援助成（不妊治療費助成）	1,250
⑭	ICTを活用した英語授業推進事業	700
⑮	スクールサポート活用事業	13,481
⑯	学校・地域パートナーシップ事業	6,175
⑰	地域の豊かな社会資源を活用した多様な教育活動支援事業	430

⑥ 子育てコンシェルジュ事業、産後ドゥーラ事業、産後ケア事業

4,165千円

⑦ 天理市版ネウボラ深化事業

1,893千円

子育て世代すこやか支援センター「はぐ〜る」に保健師による「子育てコンシェルジュ」を配置し、妊娠中から子育て期までの切れ目のない包括的な総合支援を実施します。

また、子育ての孤立化が進行している中で、協力者がいない不安や悩みを持つ母親が増加しており、特に、産後2ヵ月頃までは外出の機会も少なく一人で不安を抱え込みうつ傾向になってしまうケースもあるため、子育て経験がある産後ドゥーラが妊産婦の子育て相談や家事・育児を支援します。産後うつ等を引き起こす危険性に対しては、産後ケア事業として、産後の心身の休養を促し、その後スムーズに家事・育児ができるように、助産院等でのショートステイのほか、助産師が自宅を訪問し、専門的な相談支援を実施します。

そして、「はぐ〜る」を拠点として、「天理市版ネウボラ」をより深化させるために、各家庭をつなぐ民間の子育て支援団体（NPO法人）を育成・強化し、自立を促して多様な子育て支援を確保するとともに、子育てに関する知識の地域定着を図ります。

また、「はぐ〜る」の機能強化を図ったうえで、講座・教室を開催し、認知と利用を高めます。

⑱ 小・中学校 ALT（英語指導助手）招致事業	10,700
⑲ 小中学校及び幼稚園改修事業	86,685
⑳ 北中学校及び南中学校整備事業基本計画・基本設計	32,196
㉑ 井戸堂幼稚園芝生化事業	2,298
㉒ 柳本幼稚園園舎耐震補強事業	115,185
㉓ 放課後わくわく広場事業	889
㉔ 放課後講習「まなびタイム」推進事業【新規】	1,989
㉕ 伝統文化芸術体験事業【新規・創生】	880
㉖ 小規模特認校通学費補助【新規】	1,179
㉗ スクールカウンセラー巡回相談事業	4,060
㉘ スクールソーシャルワーカー巡回派遣事業【新規】	840
㉙ 学校図書館開放事業【拡充】	1,110
㉚ いじめ防止対策推進事業	807
㉛ 不登校、ひきこもり対応（適応指導教室、学科指導教室の充実等）	8,093
㉜ 特別支援教育支援員の配置（小中学校）	17,043
㉝ 天理駅前広場における政策アウトリーチ事業【新規・創生】	5,407

㉚ 北中学校及び南中学校整備事業基本計画・基本設計
32,196 千円

北中学校の校舎は古い棟で昭和 34 年に建設されており、南中学校の校舎についても古い棟で昭和 36 年に建設されています。
両校とも経年により老朽化しており、また耐震性能も良いとは言えない状態のため、建替えや耐震補強、改修等の手法の中から最も効率的で合理的な整備を行う必要があります。その整備方法について検討し、最適な手法を選んで基本計画・基本設計を行います。

㉔ 放課後講習「まなびタイム」推進事業
1,989 千円

基礎学力の定着と家庭での学習習慣の定着を目指して、各校において放課後等の時間に、地域の教育力等も活用しながら学力補充の講習会を実施します。

㉖ 小規模特認校通学費補助
1,179 千円

本市では平成 29 年度から、市内全域から就学することのできる小規模特認校制度を福住小学校で実施します。
小規模特認校制度とは、学校の特色を理解し、小規模な学校で学ぶことを希望する児童が、現在の住所のまま、小規模特認校として指定された学校に入学・転入学できる制度です。この制度により 4 月から福住小学校に就学する児童の通学費を補助します。

IV 垣根を越えた連携・協働で、暮らしやすく、住み続けたいまちをつくる

① メディカルセンター管理事業	2,408
② 特定健診、肝炎検診、各種がん検診等の実施	38,429
③ 各種予防接種、子宮頸がんワクチン等予防接種事業の実施	140,001
④ 介護予防リーダー事業【新規】	1,843
⑤ 地域支え合い事業	4,055
⑥ 街づくり協議会実施事業	258
⑦ 地域総活躍まちづくり提案事業	3,000
⑧ 災害対策（自主防災組織補助、非常備消防事業、備蓄物資購入等）	47,117
⑨ 浸水対策及び河川改修事業	76,840
⑩ 立地適正化計画策定事業	9,965
⑪ コミュニティバス「いちょう号」運行 2 路線	23,607
⑫ デマンド型乗合タクシー「ぎんなん号」運行 区間運行方式 4 系統	11,444
⑬ 山辺・県北西部広域環境衛生組合事業	115,792
⑭ 未収金対策支援事業	878

④ 介護予防リーダー事業
1,843 千円

本市における介護予防の取組を今まで以上に大きく広げるため、市民の中から介護予防リーダーを育成することやその活動支援を行います。
また、介護予防リーダーの活動を普及するため、介護予防の運動等を収録した DVD を作成します。

⑬ 山辺・県北西部広域環境衛生組合事業
115,792 千円

山辺・県北西部広域環境衛生組合における人件費、環境影響評価業務委託料、環境整備基金への積立金等に対する天理市の負担金及び借地料を計上しています。
広域化により、コストの大幅な削減と大型炉による安定的なごみ処理が可能となり、環境への負荷低減が図られ、持続可能なごみ処理体制を目指していきます。

地方創生推進交付金事業

1. 働き方改革による、安心して産み・育て・働けるまちづくり

43,588千円

本市は京阪神都市部への通勤アクセスの条件が近隣市に比べ不便なため、現役世代の転出が多く、転出抑制と定住促進に向けて、本市で働きたい人が働くことができる場の創出が求められています。また、理想の子ども数を持たない理由として、子育てや教育にお金がかかり過ぎるという経済的理由が多く、経済的な負担軽減と現役世代が働きやすい環境づくりが課題になっています。

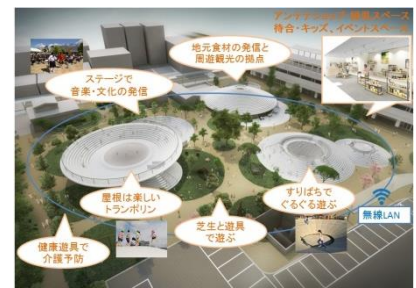
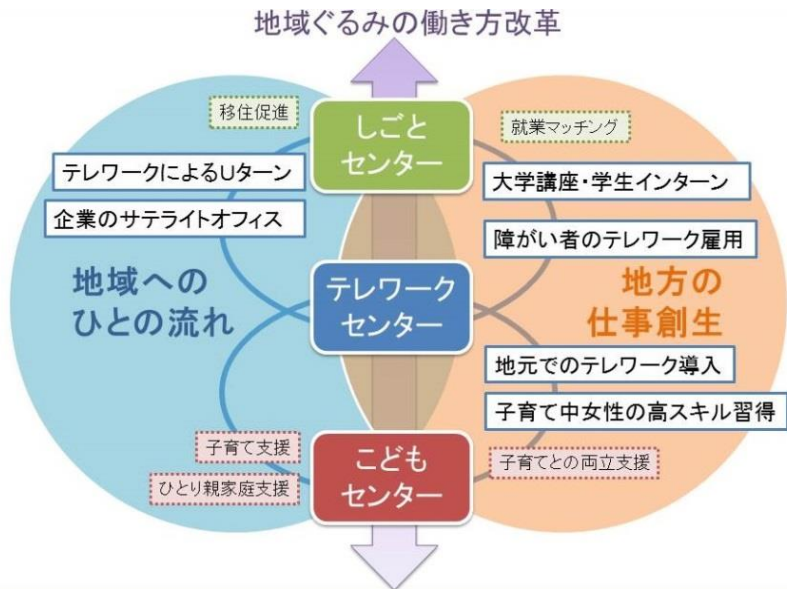
そこで、本市では、地方創生推進交付金を活用し、子育て世代すこやか支援センター、しごとセンター及びテレワーク拠点の3つの拠点で連携して「働き方改革による、安心して産み・育て・働けるまちづくり」に向けた事業を行います。

子育て世代すこやか支援センターでは、妊娠から出産、子育てに至るまで切れ目のない一貫した支援を行う「天理版ネウボラ」を構築していますが、これをさらに深化させ、子育て女性の「孤育て」化を防ぐための事業を展開します。具体的には、同センターを子育て支援の拠点とするための整備を行うとともに、同センターにおける講座等を充実させ、講座を担うファシリテータの養成に努めます。また、子育て女性の就労をサポートする父親の育成を図るとともに、父親同士のネットワークを構築していきます。

天理市しごとセンターでは、子育て女性と若者の就労支援を重点化するため、市内企業情報をデータベース化して3つの拠点で情報共有するとともに、女性・若者の就業・定着を図る相談業務・セミナーなどの支援を行います。また、若者や子育て世代でも起業に挑戦できるよう空き店舗を活用した創業支援を行います。

テレワーク拠点では、子育て女性等にテレワークスキル訓練を行い、テレワークを活用して働くことができる人材を育成するとともに、出産や介護などでキャリアを中断せずに女性が働き続けられる環境を構築します。また、国が推奨する「テレワーク」の本格導入に向け京阪神の企業等へアプローチし、テレワーク拠点に企業のサテライトオフィスを誘致するなど、テレワークの利用促進と企業のI・Uターンを支援していきます。

なお、上記3拠点において展開される子育て世代の支援施策等については、新しい天理駅前広場におけるPRイベント等により、本市の施策に対する低関心層や潜在的ニーズを持つ層へのアウトリーチに取り組んでいきます。



○事業費

・天理市版ネウボラ深化事業	1,893千円
・ICTを活用した新たな働き方推進事業	10,583千円
・創業支援事業	16,967千円
・天理駅前広場における政策アウトリーチ事業	5,407千円
・若者世代男女共同就業促進事業	3,738千円
・柔軟な働き方による就業支援事業	5,000千円

2. 歴史文化資源を核とした文化・芸術振興の拠点づくりプロジェクト 100,275 千円

本プロジェクトは、奈良県が地域の最大の強みである歴史文化資源を活用し、文化・芸術振興の拠点として本市杣之内町に「(仮称)奈良県国際芸術家村」の平成 32 年度中の完成を目指し、奈良県と天理市が連携・協力して、文化・芸術の振興はもちろん芸術家村と天理駅前広場やトレイルセンター等の観光交流拠点と結んだ周遊観光、農村交流施設での地元製品の販売等を見据えた取組を促進するなどの事業を展開していきます。

今後の具体的な取組として、本市には 1500 基を超える古墳群が存在するなど古代国家発祥の地として重要な文化財が数多く残されており、これらの文化資源を広く PR するため、出土品の複製品を製作するなど古墳文化をわかりやすく伝えるための施策を展開します。また、本市の多様な文化・芸術コンテンツを活かした「芸術フェスタ」の開催や、芸術家に一定期間滞在し創作活動をしてもらう「アーティスト・イン・レジデンス」の実施に向け制度設計を行うとともに、芸術家等が活動拠点として滞在できる空き家を把握するための調査を行います。インバウンドを意識した周遊観光や地元産品販売の促進については、芸術家村と天理駅を結ぶエリアを「芸術ゾーン」、天理駅前から天理本通りを軸とした国際芸術家村へのルートを「芸術通り」と位置づけ、「芸術文化に出会える街」を目指して、歩道改修やアート作品の展示を行う一方、各観光拠点を結ぶサイクルルートを整備して、周遊サイクルイベントやウォーキングイベントを開催します。なお、これらの事業については、地方創生推進交付金を活用して実施します。

本年度の事業としては、古墳出土品の保存事業、「芸術フェスタ」の開催や芸術家村周辺エリアの情報発信事業としてホームページやアプリの制作などを行うこととしています。



○事業費

・周遊観光事業	11,240 千円
・芸術家村周辺エリア情報発信事業	18,360 千円
・文化財の保存と活用事業	19,137 千円
・空家対策事業	3,120 千円
・天理市版 CCRC 導入可能性調査事業	5,000 千円
・山の辺フィルムコミッション事業	7,200 千円
・芸術通り基本計画策定事業	5,400 千円
・アーティストインレジデンス実施事業	1,200 千円
・天理マルシェ開催事業	2,500 千円
・地域資源を活用した地場産品活性化事業	5,400 千円
・天理芸術フェスタ開催事業	18,626 千円
・伝統文化芸術体験事業	880 千円
・古墳文化情報発信事業	288 千円
・鑄造体験事業	1,924 千円